

事業拡大に繋がる自社の標準プロセスを構築したい

昨今、複数の顧客からプロセス改善の要求を受け始めている。組織として、標準プロセスの構築やAutomotive SPICEのレベル達成に取り組む必要があるが、今後のことも考慮し、その場しのぎの対応ではなく、組織内の改善活動を推進する部隊を組織化し、継続的改善を行える文化を醸成し、事業拡大に繋げたい。



Business Cube & Partners

Automotive SPICEと、現状の開発状況とのギャップを見つける

Automotive SPICEのトレーニングを開催し、SEPGを育成する

標準プロセスの構造とプロセス文書を整備する

◆ 概要

- 車載システム開発に関わるシステム、ハードウェア、ソフトウェアのエンジニアやそのマネジメント層、そして各種改善活動の中核となる方々を中心とした豊富なトレーニングを、日本だけではなく、中国や韓国においてご提供しています。
- 個別のご要望に基づき貴社を訪問してのトレーニング開催はもとより、貴社人材育成方針に基づいた年間トレーニングプログラムの構築もご支援しています。

◆ 基本的な開催順序

- 次ページ以降の一覧に基づいて左から右へご計画ください。
- 受講順番の大幅な入れ替えをご希望の場合には、事前にご相談ください。

◆ トレーニングの所要時間

- 「短縮」「延長」共にご要望に基づいて変更可能です。
- 開催場所までの移動時間との調整のため、所要時間が変更となる場合がありますので、詳細はご相談ください。

◆ トレーニングテキスト

- トレーニングを受講される方の人数分が必要となります
- またご参加人数に基づいてボリュームディスカウントさせていただきます。

◆ その他

- ご要望により、トレーニングの参加証書・修了証書を発行いたしますので、詳細はご相談ください。

Automotive SPICE 実装支援コースの全体像

◆ 各トレーニングコースの詳細については、弊社ホームページをご覧ください。

推奨受講順序

コース名	概要	所要時間※1
Automotive SPICE 3.0 プロセス基礎トレーニング ～管理・支援～	本トレーニングでは、Automotive SPICE 3.0で新たに導入されたコンセプトや更新されたポイントなどを簡単にご紹介した上で、Automotive SPICE 3.0 を活用してプロセス改善を推進するための勘所を詳しくご説明します。	1日（10:00-17:00、 休憩時間を含む）
Automotive SPICE 3.0 プロセス基礎トレーニング ～ソフトウェアエンジニアリング～	本トレーニングでは、Automotive SPICE 3.0で新たに導入されたコンセプトや更新されたポイントなどを簡単にご紹介した上で、Automotive SPICE 3.0 を活用してプロセス改善を推進するための勘所を詳しくご説明します。	1日（10:00-17:00、 休憩時間を含む）
プロセス改善アプローチ ～能力レベル1から3～	プロセス改善には複数年に渡って組織的かつ段階的な取り組みが必要です。そこで弊社のコンサルティング経験に基づく最も効果的なアプローチを、各能力レベルの要求事項と共に具体的に解説します。	1日（10:00-17:00、 休憩時間を含む）
組織標準プロセス ～ツールを活用した構築方法～	組織標準プロセス（OSSP）は、貴社組織（または部門）における標準プロセスを指す総称です。継続的なカイゼン活動の基盤となる OSSP 構築のためには製品と同じく「アーキテクチャ」が必要不可欠です。そこで弊社が過去の経験に基づきツールを活用して構築した OSSP（雛形）を題材として、貴社が Automotive SPICE に対応した OSSP をツールを活用して構築する際の留意事項を解説します。	1日（10:00-17:00、 休憩時間を含む）
プロセス FMEA	製品開発において潜在的な故障を特定するために広く利用されている技法を製品開発プロセスに対して適用したプロセス FMEA について、組織標準プロセスの定義の段階やテラリング時においてどのように活用方法すればいいのか、について対話形式（講師と受講者）および演習を重視しながら解説します。	1日（10:00-17:00、 休憩時間を含む）

※1：上記は標準ケースの場合です。貴社出張トレーニングの場合には調整可能です。

◆ 各トレーニングコースの詳細については、弊社ホームページをご覧ください。

推奨受講順序

コース名	概要	所要時間※1
機能安全概論トレーニング ～ISO 26262 の全体像～	機能安全対応のために必要となる ISO 26262 に関する基礎知識を始めとして、「具体的にどの章のどの部分の要求事項が自社に関係するのか」、「なぜそのような対応が必要になるのか」、また「どのような分析が必要になるのか」という点を理解していただけるように、ハザード分析の演習も含めて解説します。	1日（10:00-17:00、休憩時間を含む）
機能安全プロセストレーニング ～ソフトウェア編～	ISO 26262 Part6で規定されているソフトウェア開発関連活動に対する概略や、活動実施のための手法、技法等を解説します。ISO 26262に適合したソフトウェアをどのように開発したらよいかを把握したい方に、最適な内容です。	1日（10:00-17:00、休憩時間を含む）
セーフティコンセプトトレーニング ～ソフトウェア編～	安全な製品を開発するためには、どのように安全を確保するかということを明確にしなければなりません。「ものは壊れる」「人のミスによって不具合が混入する」ことを想定し、まず最初に明確なセーフティコンセプトとして対策を定義する必要があります。本トレーニングでは、ISO 26262 Part3、Part6 を中心として機能安全に関する活動を実行する際に基盤となる重要事項を解説します。	1日（10:00-17:00、休憩時間を含む）
設計技法トレーニング ～ソフトウェア編～	ISO 26262では、製品開発に対する様々な技法／手法が、そのASILのレベルに応じて要求されていますが、本来の目的を達成するためには、開発対象のソフトウェアや上位システム、開発組織の特性に合わせた最適な技法、手法の適用が必要となります。そこで、ISO 26262 Part6で要求される技法／手法を体系的に解説します。	1日（10:00-17:00、休憩時間を含む）
ISO 26262 機能安全実践 トレーニング ～最適設計を実現する機能安全設計の考え方と実践方法～	本トレーニングでは、安全工学の基本原則に基づいてハードウェアアーキテクチャを再検討することで、機能性、安全性を損なうことなく、回路構成を単純化し、コストを低減させる方法をいくつかの実現例に基づいて解説いたします。	1日（10:00-17:00、休憩時間を含む）

※1：上記は標準ケースの場合です。貴社出張トレーニングの場合には調整可能です。



Business Cube & Partners

お問合せは下記までお気軽にご連絡ください。

ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社

コンサルティング事業部

consulting@biz3.co.jp

<http://biz3.co.jp>